

この度は素晴らしい経験をさせていただき、誠にありがとうございました。もう遠い昔のこのように感じますが、アリゾナでの一ヶ月の体験を記しておきたいと思います。

私が渡米したときは真夏の時期で、朝9時ごろにはすでに気温が40℃に達していました。しかし日中はほとんど病院にいたため、病院内で夏を感じることはできませんでした。

一日は朝7時のカンファレンスから始まりました。Imaging, Cath, EKG, Cardiology, Transplant などの種々のトピックや症例提示などを、朝食を取りながら聞きました。聞き取るのに精一杯でしたが、どの話題も目新しく大変興味深いものでした。また Fellow や Attending の先生方がでプレゼンテーションを担当していましたが、話術の巧みさだけでなくスライドの美的センスにもおおいに魅了されました。その後に行われる CCU round, Cath, EKG round, Consult には自由な参加が認められており、昼のカンファレンス終了まで集中力を要するものでした。昼には Student lecture, Fellow conference, Resident lecture 等も自由参加の形式で、ここでも昼食をいただけるのはうれしい時間となりました。Student lecture や Resident lecture は発言を求められることもあり、積極的に参加することができました。また週に一度は、内科全体の Grand round があり、各診療科の Attending が持ち回りで個性豊かなプレゼンテーションをして下さいました。午後は Cath lab, Echo lab, Outpatient clinic などを見学させていただきました。どの部署でもたいへん親切に教えていただけるのと同時に、常に質問を求められる時間でした。

私の医学的知識の未熟さもあったのですが、不慣れな英語をやり取りしていくなかで、そのすき間をかなり埋めることができたように思います。特に研修医の症例に対する取り組み方や知識の吸収の仕方等は日本の優秀な先生方とほぼ同じスタイルではなかったかと思います。私にとってこの留学は、日本の医療を考え直す契機ともなりました。その国なりの文化や風土があり、保険制度や生活背景等が絡み合っその国独自の医療体系が形成されていることを感じました。日本にないものを取り込むことによって、日本の医療の質を向上でき、そして高水準の臨床技術を日本の医療に取り入れてみたいという気持ちが強くなりました。自分の医師として将来はどうなるかわかりませんが、今回の臨床研修を生かして、卒後は、アメリカで臨床研修を積むことを目標に循環器内科を目指して頑張っていこうと思っています。今回の留学は自分にとって最高の経験になりました。

今回の短期留学実現のためご援助下さいました横浜市立大学名誉教授の松本昭彦先生、ジェックスの高階経和理事長、木野昌也会長をはじめ JECCS の皆様、Dr. Ewy、アリゾナ大学の皆様、ホストのジェリー、同行した横浜市立大学の岩花さんにも、感謝の意を記して

おきたいと思います。

最後になりましたが、私達は、研修の終わりにあたってアリゾナ大学より大変立派な「修了証」を頂いたことをご報告いたします。本当にありがとうございました。



Dr. Ewy と修了証を手にする岩花さんと筆者